

金所自地より入る桶山をむく尾臨判官惣兵
子金所田平三郎七百金所村岡次郎三百所大森五
所四百金所其年の如く諸士万平を唱り
衛盛公尾臨を改戸次を稱して姓とす

建久元年下河辺莊司平三郎盛公太師親忠盤子
山に押寄るより十四日戸次を打立て盤公山の谷間
中より森園越の細道より旗本鬼柳相從より人々
田口元方村岡大森中林等比企芳野入道等野
永山佐野傳戸澤九郎小白川鬼柳大室寺又教
坊白川小梅月十四日合戦の時二階堂を又教坊金剛

杖より打取首を取られより衛盛公鬼柳の口より隠明
寺藏人太郎通教田平治盛治より或百人許を逃れ
戸澤より尾臨大教坊より老平の偏連満石の田下綱木
是日金所をむくりぬ膳谷郡平柳九郎範英といふ
者あり是は後平武光又代の孫父の代より花冠といふ相
公令はありあつた故あやうを打立て平
柳は住居す彼を打取人逃戸次は明神より平柳の
時内降より一羽飛上り平柳の上より羽を何のやうに
平柳の方へ飛りしれより押寄平柳九郎を打取り
平柳落陣ハか後十郎が返り忠四一早速落城す